Ver1.0

2011
06

ver1.0 2011 06

Cafe of the Dead

カフェ・オブ・ザ・デッド
Cafe of the Dead

cafezombie@gmail.com
http://cafezombie.jimdo.com/

初心者のためのゾンビ入門

「ゾンビ」と言われて何を思い出すでしょうか。「動く死体」「キョンシー」など様々なものが出てくるでしょう。しかし、ゾンビというものが一体何なのかを知っている人は実は少ないです。知っていたらもう立派なゾンビマニアです。そんな方は自分の好きな「ゾンビ像」を既に持っている方です。

実は「ゾンビ」と一言で言っても、実は様々なものが存在します。ゾンビとは現実に存在しないもの。だからこそ、作品によって様々な描かれ方をするのです。それを知らない人は、「ええ～？　ゾンビ？ってグロくてキモいヤツ～？」なんて言ってしまうのです。

この「カフェ・オブ・ザ・デッド」では、どんなゾンビが存在しているのか、ゾンビとは何かを紹介していきます。これを読み、是非あなたのお気に入りの「ゾンビ像」を見つけてください！

僕が愛したゾンビ映画―

死霊のえじき

星野洋行

『死霊のえじき』(Day of The Dead) は 1985 年アメリカで公開された、『ゾンビ』(Dawn of The Dead) に続く、ロメロ版「ゾンビ」シリーズの三作目にあたる映画である。文献を見てみると『ゾンビ』に続き、ダリオ・アルジェントと共同で制作をする予定だったが、当時、ドルの高騰でアルジェント側からの協力が得られなったために、オリジナル脚本を改稿した上で本作が制作された。特殊メイクアップのトム・サヴィーニによると、本来『死霊のえじき』は人間対ゾンビの戦争大作、ゾンビ版『インディ・ジョーンズ』であったというらしい。やはり予算の都合からか (といっても調べてみると制作費は 350 万ドル。日本で制作される「立派な大作」映画並の予算はかかっているのだが)、舞台はフロリダ郊外の地下基地という空間の限定がなされている。しかしそれにより、人間対ゾンビというスペクタクル的側面だけが前景化するだけでなく、生き残った人間同士の対立、また人間たちがいかにゾンビと関わっていくかという、増え続ける「不気味な者」に対する、それぞれの登場人物の生き方の対立といったものが描かれている。

ここでは生き残った民間人だけでなく、ゾンビを研究する科学者たちや、彼らの支援を行うために軍人たちが立てこもっている。「40 万対 1」という人間にとって、圧倒的に不利な比率にまで増殖してしまったゾンビたちを前に、何とかしてゾンビたちに立ち向かい、コントロールするか日々研究を続ける科学者たちと、一刻も早く「目に見える成果」を要求する軍人たち。

ここでこれまでのゾンビ映画とは一線を画す「新しいゾンビ」が登場する。

バブというローガン博士らによって訓練されたゾンビだ。バブはゾンビの中でも比較的状態がよく、生前の記憶が残っているため、ローガン博士の言葉や銃の使い方を僅かながら理解ができる。ゾンビでありながらも「完全な」ゾンビにはなりきれていないバブはある意味 'Living Dead'(生きながらにして死んでいる) に忠実な存在なのかもしれない。

映画が進むにつれ、ローガン博士によって訓練されていくバブと博士の間にはどこか奇妙な共犯関係になっていく。ローガン博士がゾンビに軍人の死肉を与えてたことが判明し、怒り狂った軍を指揮する強硬のローズ大尉によって射殺されてしまうのだが、バブはそれに対し怒り、悲しみの感情をあらわす。そして最大の見せ場であり最も感動する場面は、地下に雪崩れ込んだゾンビたちの餌食になる直前、ローズ大尉に対し、バブが敬礼をするところだ。なんという皮肉。

日常生活、普段僕たちが暮らしている世界からうんと離れた世界設定にすればするほど、そこで繰り広げられる世界認識やドラマは、僕たちがよく知っている世界の構造によく似てしまうのが、映画、とりわけ SF 映画やゾンビ映画などの宿命ともいえるが、ロメロの「ゾンビシリーズ」も、一般的にそうした解釈で見られている。一作目『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』(The Night of Living Dead, 1968) は 60 年代の公民権運動、二作目『ゾンビ』(Dawn of the Dead, 1978) は消費社会批判、三作目の『死霊のえじき』はレーガン政権の軍拡批判、四作目『ランド・オブ・ザ・デッド』(Land of the Dead, 2005) はブッシュ政権のイラク戦争批判といった具合に。ロメロは 1959 年、ヒッチコック監督の『北北西に進路を取れ』の撮影現場でアルバイトをするが、そこでハリウッド流の「効率最優先」の映画制作に疑問を抱くようになり、大学卒業後、自ら製作会社を立ち上げることになったり、その後も何回かメジャー資本の映画制作の話が来ては頓挫したり降板したりしているように、ロメロ自身、僕たちがその世界に暮らしていながらも、自分自身ではどうすることもできない大きな「世界の構造」に真っ向から反発し、戦い続けている監督なのである。

ちなみにロメロに持ちかけられた企画として『バイオハザード』があったが、これは降板、また The Mummy という映画では、メジャースタジオの制作方式と合わず、企画は実現せずに終わった。The Mummy はその後、ほかの監督によって作られ、『ハムナプトラ／失われた砂漠の都』というタイトルで日本でも公開された。

たかがゾンビ、されどゾンビ

吉田伸太郎

「なんでゾンビが好きなの？」

こう聞かれる事は多いけど、それに答えるのはちょっと難しい。

なぜならサッカーが好きな人に「なんでサッカーが好きなの？」って聞くのと同じだからだ。

「ゾンビ」という言葉を聞いて、「怖い」「気持ち悪い」という印象を持つ人は多いと思う。

おそらくそれはゾンビの中期一般のイメージが、汚く腐っていて臭みとろなものだからだろう。

でも世の中にはいろんなゾンビがいる。

足の早いやつもいれば、ノロマなやつもいる。

力のあるやつもいれば、頭の悪い奴もいる。

人間と一緒じゃないか。

人間にだって「怖い」「気持ち悪い」人はいっぱいいる。

でもそれぞれに個性があって、誰一人同じ人はいない。

ゾンビも同じなのだ。

「怖い」「気持ち悪い」やつがいれば、「優しい」「かわいい」やつもいる。

私はそんなゾンビが大好きだ。

だからゾンビを頭から毛嫌いしないでほしい。

もう一度ゾンビという存在を見つめ直してほしい。

きっと今までとは違うゾンビに触れる事ができるから。

たかがゾンビ、されどゾンビなのである。

吉田伸太郎
エンターテイメントチーム『裏セブンス』ゾンビ映画製作チーム『ゾンビ会議』所属。ゾンビとロックを愛する映像作家。

ゾンビの世界であなたと一緒に

nanako

「ようこそ "リッツ" へ マダム」
これは、私の大好きなビル・マクダーモット（ビリー）の台詞である。しびれませんか？　ときめきませんか？
ビリーとは、ジョージ・A・ロメロ監督作品『死霊のえじき』（原題：Day Of The Dead 製作：1985年）に登場する無線技師である。（演じるのはジャーラス・コンロイ、『トゥルー・グリット』にも葬儀屋として出演！）
ビリーやヘリコプター操縦士のジョン、研究者、軍人たちは地下に暮らしている。冒頭に引用したのは、ビリーが、ジョンと住む「離れ」へ研究者サラを招いたときの台詞である。ちなみに「リッツ」というのは世界中にチェーン展開してるホテル、ザ・リッツ・カールトンのことだ（たぶん）。
ビリーは第二次世界大戦時に使われた無線を直して外部との連絡を試みている。地下の宿舎で対立する研究者と軍人を傍観しながら。
なぜか？　それは、地上がゾンビで溢れているからである。

この時点で観る気を無くした人、ゾンビ映画は「怖い？」「残酷？」……確かにそうだ。それだけじゃない面白み…例えば、社会や人間を批判する寓話に見えたり（たとえロメロ監督自身にそのつもりはなくとも）……とにかく魅力を語ればキリがない。なので今回は、『死霊のえじき』の私の好きな登場人物について書きたい。
まず、なんといってもビリー。目がギョロギョロしてチョコチョコしてて可愛らしい！　しかしサラ（研究者）を助ける男気はあるし、いつもブランデー入りの小瓶を持ち歩いて飲んでたり、ゾンビをスコップで倒した後に「バウッ」みたいなかけ声？言ったり……。ラストの海辺のシーンでカモメに餌やってるところもたまらない！（遠くて顔までよく分からないのが難点！）ブランデーが無くなった時、その小瓶を捨てるという成長を見せる。

地上はゾンビだらけ。地下で暮らしながら、基地から離れたところに地上にいた時のような空間を作る。そこを高級ホテルに例えるようなお茶目さ、皮肉。
他にも魅力的な人物はいる。
・ヘリコプター操縦士のジョンは、研究者と軍人の対立に我関せず……な態度をとっていたけど、結局はサラに力貸してくれるし
・ローガン博士はゾンビ研究に夢中すぎるのが玉に瑕？だけど目がキラキラ、イキイキしてるし
・ミゲルは精神的にかなり不安定だけど、そこも繊細で守ってあげたい……と思えなくもないし
・ローズ大尉は傍若無人で卑怯な典型的な悪役だけど、「そこが素敵……」と思えなくもない。ラストで「俺の肉で窒息しやがれ！（Choke on me!）」という名言出すし（DVDのメイキングのインタビューでけっこう太っていたのはショック）
・極めつけは、ゾンビのバブ！　ゾンビである彼は、博士のことを父と慕う赤ちゃんのよう。ベートーベンの「喜びの歌」を聞いたり最後の敬礼など、母性本能くすぐられること間違いなし！
『死霊のえじき』だけでもこんなに個性的で魅力的な人物がいる。ロメロの作品は人間もゾンビも（時にはゾンビの方が？）個性が強い。人間社会の縮図のようだ。ゾンビだらけになった世界では、ゾンビと立ち向かうことが希望ではない。数が増えすぎたゾンビは力で抑えつけられる存在ではないし、人肉で飼い慣らす存在でもない。ジョンとビリーのように、ゾンビに立ち向かわず、ゾンビのいない遠い世界を目指して逃げることが希望なのだ。現実の人間社会も、逃げることで新たな希望が見つかるかもしれない。但し、ゾンビのいない世界があれば、だが。

とっかかりは何でもいい。とにかく観てみてほしい。恥ずかしながら言わせてもらう。ゾンビ映画を観ないで生きることこそ、ゾンビとして生きるようなものなのだ。

nanako
10月のZOMBOOMでJarlath Conroyに会うため、貯金＆英語勉強中です

ゾンビカフェ委員会とは……！

ゾンビ好きによる、ゾンビジャンルの布教活動をしている有志団体です。様々な方にゾンビの良さを知っていただき、ゾンビ仲間を増やしていこうというのが「ゾンビカフェ委員会」の目的です。なお、ゾンビになったりゾンビを作ろうとしているわけではありません。
その名のとおりゾンビによるゾンビの為の「ゾンビカフェ」の開催を目標としています。そのために、それ以外にもゾンビを広く布教し続けるため、いろいろな活動をしています。
趣旨ご賛同頂ける方のご協力をお待ちしております。

cafezombie　cafezombie@gmail.com

急　募

★ 記事ライター募集！
このフリーペーパーに記事を書きませんか？　無償となりますが、ゾンビに対する思いの丈をガッツリ書くことができます。興味ある方のご連絡をお待ちしております！
★ ゾンビイラスト募集！
ゾンビイラストを書いて頂ける方を募集しています。デジタルデータでイラスト作成可能な方はご協力ください。

TODAY'S RECOMMEND

死霊のえじき
Day of the Dead

監　督：　ジョージ・A・ロメロ
日本公開：　1986年
制作国：　アメリカ
上映時間：　102分

twitter　140字広告コーナー

タイムライン　@関連　リツイート▾　保存した検索▾　リスト▾

cafezombie ZOMBIE cafe committee
【ゾンビカフェ】ゾンビ布教フリーペーパー「Cafe of the Dead」を置いていただける店舗募集中！映画館、本屋、雑貨屋、飲食店などなどどこでも構いません！ 誰でも気軽にお手に取れる場所へこのフリーペーパーを置いてください！ 10枚～枚数はご相談。個人でもお気軽にどうぞ！

o2txt 創作オンリー短編小説集 O2TXT
短編小説専門の同人アンソロジーです。ジャンル不問、掲載料無料、年二回発行。毎回テーマごとに原稿を募集します。ご興味のある方は公式 web かツイッターを参照ください。次回発行は 12 月を予定しています。

幻妖商会＊LUNE genyou_Co
幻妖商会では、他には無いタイプのゾンビグッズを製作＆販売してます。
http://69lynx.blog.shinobi.jp/　また年に二回スプラッター映画のイベントも企画＆開催してます！
http://splatternight.blog95.fc2.com/

DVU DVUdabu
DVU03：不定期刊行の映画同人誌。およそ2年ぶりの第三号ではポルトガル映画界の吸血鬼ノスフェラトゥ、ジョアン・セーザル・モンテイロを特集します。7月ネット通販にて発売開始予定
http://d.hatena.ne.jp/dvu/